

# 令和5年度の教育活動等に対する自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年2月26日実施

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 園長

山本 環 ・ 安武 裕子

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 学校関係者評価委員会長

岩井 弘美

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園 学校関係者評価委員

田中 愛実 ・ 村上 知子 ・ 坂田 尚之

教育理念	真に自由に個性を伸ばしながら正しい人間形成を目指すには、優れた教育者との出会いと適切な環境が必要である。
	幼稚園は、子ども達が初めて社会生活を体験する場であると同時に、生涯を通じた財産である様々な能力の礎を築く大切な時期である。
	しらゆり幼稚園は健康と情操教育を重視した教育に努め、仲間と協力しながら自然体験や社会経験を重ね、五感を使って感じ取り、考え、主体的に行動することを通して、個性と能力を伸ばす教育をおこなう。
教育方針	孝友三心 一、親を思う心 一、友を愛する心 一、自分をみつめる心
教育目標	一、体の丈夫な子 一、心の豊かな子 一、よく考える子
	自然に恵まれた教育環境のもと、『孝友三心』を建学の精神とするとともに、『健康は一生の宝』という言葉を念頭に置き、体の丈夫な子、心の豊かな子、よく考える子を育てることを園の目標として教育に努める。
本年度の重点目標	<b>仲間や自分を大切に思い、互いを認め合い育ちあえる教育をする。</b> ◎個性を尊重し、集団の中で自分らしさを発揮し伸ばしていけるような働きかけをしていく ◎ねらい・内容・発達を捉えた保育を実施し、気づきや育ちを記録して情報発信する ◎「なかよしTime」で憧れの気持ちや思いやりの心を育てていくと共に、みんなで遊びを楽しみこども同士で伝え合うようにする

学校法人鈴木学園 しらゆり幼稚園

評価基準	十分に理解(取り組み)できた・目標を達成している	9・10	* 左表の評価基準を参考に10段階評価する
	ほぼ理解(取り組み)できている・積極的に進められている	6～8	* 項目に対する取り組み内容を記入する
	理解(取り組み)できてはいるが、不十分な点(課題)がある	3～5	* 取り組めなかった項目については、今後の改善計画を記入する
	理解できていない・取り組めていない・未実施	1・2	

\* 評価点の下段( )は昨年度の点数

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
教育理念 指導計画	園の教育方針を理解し、園児のために意欲的に教育・保育活動に取り組めた	7.8 (7.6)	保育室に教育方針や目標を大きく掲示し、補助教諭も含め保育にあたる全教職員が意識して取り組む姿勢が身に付いた。行事後や週の活動後も目標やねらいの達成について振り返り、次の活動につなげられるように取り組むことができた。 保護者に対しても行事や活動のねらいを都度おたよりに記載することで、家庭とも子どもの成長を共有し確認することができた。
	保育の目標を達成するために【ねらい】があり、【ねらい】をより具体的ににしたものが指導計画であり、保育の内容であることを理解している	8.3 (8.1)	
	幼児の興味や関心、幼児の実態、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している	8.0 (7.7)	
保育について	楽しく保育に取り組むことができている	8.2 (8.6)	子どもたちが楽しく安全に活動する保育はできているが、次の活動の準備や個別の支援に追われ、保育を一緒に楽しむ余裕がない保育者もいた。園全体で準備や支援を共有し、補い合える体制を整えていく。 日々の保育の記録・反省を学年で共有し、課題を相談することができた。今後も反省を生かし、さらに良い保育になるよう努める。
	幼児が主体的に関わりたくなるように、活動の展開に応じて環境の再構成をしている活動に必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意している	7.3 (7.4)	
	自分の保育と計画の評価・反省をおこない、次の保育と計画に生かせるようにしている	7.1 (7.4)	
行事について	行事の種類や実施回数は適切である	7.1 (7.4)	前年度の振り返りを生かし、ねらいを明確に意識して行事を実施することができた。行事後も反省点や良かった点を記録し、次に生かせるよう努めることができた。 大きな行事が続き、行事をあそびに展開することが難しかった。行事とあそびがぶつ切りにならず、つながるように計画していく必要を感じた。
	行事のねらいを理解し、計画や実施に十分生かしている	7.5 (7.4)	
	行事の計画・実施・評価・改善の体制をとっている	7.5 (7.7)	
教職員同士の 協力・連携	職員相互がそれぞれ全体的に立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく幼稚園運営にかかわっている	7.6 (7.3)	連携が十分にできている学年と不十分な学年があった。シフトや担当を見直し、打ち合わせ時間を確保できるように改善していく。 全教職員が協働できる体制になっているが、仕事量に差がある。負担が偏らないように見直していく。 園内研修では他学年の保育者と関わる工夫をしたことで、園全体の様子を共有することができた。
	教育・保育・運営の課題について園全体や学年で話し合いを行っている 打ち合わせ回数、時間、内容は適切である	6.3 (6.6)	
	職務内容が明確で、協働できる体制になっている 職員の配置、係や仕事の分担・割り当ては適切である	7.2 (7.1)	
健康と安全への 配慮	複数名による登園確認を行い、欠席・遅刻連絡のない場合は保護者に確認をしている 園外・戸外活動の前には複数名で園児の人数チェックを行っている	9.0 (9.0)	登降園チェックや安全確認などは必ず複数名で行う体制が整っている。危機管理マニュアル等を園内研修で読み合わせ、外部研修にも参加し高い意識を持つことができている。職員間でアプリを使用してヒヤリハット事例を共有し、事故が発生しないよう対策している。清掃はきちんとできている。整理整頓が後回しになりがちなので注意していく。
	子どもの体調を常に確認し、怪我や事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけをおこなっている	8.6 (8.3)	
	施設内外・設備の安全点検を定期的に行い、清掃・整理整頓など環境整備に努めている	8.8 (8.6)	

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
保護者との連携	園児や保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くように努めている 保護者の気持ちに寄り添い、願いや意見に共感したり取り入れている	8.3 (8.1)	怪我や体調不良、気になる様子など細かい事も保護者に連絡をすることはできている。特に困ったことが無い子の保護者に連絡する機会が少ないので、子どもの楽しそうな気持ちや些細なエピソードも伝えられるように意識していく。 本年度は年長全員の保護者に『保育士体験』を企画したが、予想より参加者が少なかった。ふだんの様子を共有できる工夫を考えていく。
	保育中の怪我や体調、人間関係など、些細なことも保護者に連絡している	8.5 (8.3)	
	保護者保育体験、バス添乗、行事お手伝いなどの人材活用の内容・回数は適切である	8.5 (8.1)	
情報の提供	保育参観・個人面談・おたより・おうちえん等を通して、幼稚園の様子や健康・安全に必要な生活習慣などについて積極的に発信している	8.0 (8.0)	『おうちえん』でリアルタイムに活動の様子を伝えることにより、子どもの成長を保護者と共有しやすくなった。今後も活用していく。 毎日の給食もアップすることにより、食育教育にもつなげることができた。 園内掲示物は保護者の目に触れないので、写真で配信するなどの工夫を検討していく。
	ホームページ・フェイスブック・インスタグラムなどを通して、幼稚園の情報を一般に広く発信・公開できている	7.9 (7.1)	
	掲示板、掲示場所などを適切かつ効果的に活用できている	8.1 (7.0)	
守秘義務の遵守	職務上に知り得たプライバシーに関する情報等の秘密を守っている 園の重要書類や個人情報を記載した書類を園外に持ち出していない	9.7 (9.4)	クレームや相談があった場合は、プライバシー保護を守りつつ上司に相談し解決につなげることができている。まだ解決の報告が疎かになりがちなので、最後まで報告し、記録に残す。 クレームや相談内容は全教職員で共有する体制が整っている。
報告・連絡・相談	幼児・保護者のこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告・連絡・相談できている	8.4 (8.9)	
	クレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告・連絡・相談をしている	8.6 (9.2)	
特別支援教育	特別支援教育の理解を深め、該当児に個別の配慮をしながら、発達の支援を行っている	7.5 (7.4)	特別な配慮や支援が必要な園児の様子を園全体で共有し、保育にあたることができている。保護者への対応が難しい場合があるので、関係機関との連絡を密にしていきたい。 未就園児活動を積極的にに行い、次年度の入園募集に効果があった。今後も新しい企画を取り入れていく。
子育て支援	園庭開放事業や子育て支援事業に積極的にかかわることができた	8.3 (6.5)	
入園募集活動	入園説明会、その他の活動を通じて積極的に入園募集活動を行うことができた	8.0 (7.1)	
地域とのかかわり	地域の人、地域の小学校や保育園幼稚園との交流を積極的に図るよう努めた	6.7 (6.4)	近隣の方々との交流は積極的に行うことができている。コロナ禍で中止されていた園外学習も徐々に復活しているのので、今後も子どもたちの視野が広がる活動を企画していく。 保育室に10の姿を掲示したことにより、意識して保育活動に取り組むことができた。
	地域の公園・自然や道路の安全状況などについて理解するよう努めた	7.6 (7.3)	
小学校との連携	幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した保育をすることができた 年長は小学校と連携を図ることができた	7.3 (7.1)	
資質の向上	園内研修や外部の研修会には自己課題をもって進んで参加している	8.0 (7.8)	自主的に外部研修に参加する保育者が多く見られ、学んだことを保育に生かすことができている。 園内研修も研修内容が工夫され、学びを深めることができた。
	研修や研究を通し、自己研鑽に努め、保育内容の向上に努めている	8.1 (7.4)	
人権擁護	子どもの人権擁護を理解し、子どもを尊重する保育に努めている	8.2 (8.3)	思い込みや決めつけをせず、一人ひとりに丁寧に接し、子どもの考えや思いを尊重するように努めている。保育者が間違えた言動をした際は子どもに対してもきちんと謝罪している。 他クラスの保育を見学しあい、保育の改善点などを話し合える機会を設けることで自分の保育を客観的に見直すことができた。
	間違えた言動をしてしまった時は、誤りを認め適切な行動をとっている	8.3 (8.2)	
	同僚の行動が変だな、おかしいなど感じた時は見て見ぬふりをせず、教職員同士で声を掛け合ったり注意し合ったりすることができている	7.3 (7.1)	

評価項目	評価内容	評価点	幼稚園としての取り組み・改善策
本年度の重点目標	常に目標を意識し、達成できるように保育を組み立て、実行することができたか		保育や個のねらいを確認しながら子どもたちの自主性・主体性が育つ保育を心がけられた。また、個のねらいを他の職員とも共有し、成長を支援する体制が取れた。自主性・主体性が育つ中で友だちとのぶつかり合いも発生するが、互いの思いを尊重し認め合う言葉がけをするように努めることができた。「なかよしTime」を計画的に実施することで子どもたちの人間関係が広がり、憧れの気持ちや思いやりの心が育っていると感じる。保護者に行事や活動のねらいを発信することはできた。今後はねらい達成の過程や育ちの姿を伝えるように努める。
	仲間や自分を大切に思い、互いを認め合い育ち合える教育をする	7.9	
	個性を尊重し、集団の中で自分らしさを発揮し伸ばしていけるような働きかけをしていく	8.0	
	ねらい・内容・発達を捉えた保育を実施し、気付きや育ちを記録して情報発信する	7.4	
	「なかよしTime」で憧れの気持ちや思いやりの心を育てていくと共に、みんなで遊びを楽しむことも同士で伝え合うようにする	7.2	
幼稚園としての総合評価および今後の課題	<p>昨年度の学校関係者評価委員会で、保護者に保育のねらいが十分に伝わっていないと反省した。今年度は毎月の活動や行事のねらいを都度お知らせすることにより、保育者・保護者・園児が活動のねらいを共有し、より良い教育活動を達成することができたと思われる。</p> <p>昨年度から各学年主任をフリー担任として配置する体制にしたことにより、経験の少ない担任が保育中でも相談やアドバイスを受けられる体制が整い、自信をもって保育できていると思われる。複数人体制で保育することにより、不適切保育を防止することもできている。閉鎖された不適切な保育にならないように『見える幼稚園』を引き続き目指していく。</p> <p>早朝から夜間まで保育を利用する園児が増えたことによりミーティングや打ち合わせに参加できない職員が増えている。次年度は職員数を増やし、多くの職員がミーティングや打ち合わせに参加できるように努める。また、短時間で内容の濃い打ち合わせになるような工夫をしていく。</p> <p>スクールバスに園児降ろし忘れ防止ブザーを設置するなど、園児の安全を守る仕組みを整えることができた。今後も園児が安心安全に生活できる園づくりを行っていく。</p> <p>特別な配慮や支援が必要な子どもが年々増えているため、配慮や支援に関する研修に積極的に参加するように努めている。子どもに対する配慮や支援など適切な保育はできていると感じるが、保護者に対する対応が難しく課題としてある。次年度は公認心理師の採用が決まっているので、子どもだけでなく保護者に対する適切な支援ができるように努めていく。</p> <p>昨年度からの計画により園庭開放の実施日を増やし多くの未就園家族が参加してくれたので、今後は子育てに悩んでいる未就園の保護者が気軽に相談できる仕組みを検討していく。</p> <p>今年度は新型コロナウイルスにより中止されていた社会科見学などの受入れが再開し、子どもたちの学びの場を広げることができた。これからも園内・園外の環境を効果的に利用し、人的・空間的にも子どもたちの学びが広がるように企画運営していく。</p>		
学校関係者評価委員からの意見	<p>他園に比べて園舎が大きく園児数も多いが、教職員の人数が多く先生が目が行き届き、安全対策・防災防犯対策もしっかり行われており、保護者も園児も安心感が増している。</p> <p>伝統行事、季節行事、食育教育(マナー)などを重んじ、日本人としての作法が身についている。また、スマホアプリの活用やSNSでの情報発信、ICT教育など新しいことにもいち早く取り組む姿勢がとても評価できる。世界の国や環境問題も《ちきゅうフレンズ》で子どもたちが解りやすく学び、広い視野で物事をみる力が育っていると感じる。</p> <p>活動のねらいが保護者に発信されるようになり、子どもたちも行事に向かって何を頑張るのかを理解して取り組めるように指導していると感じる。</p> <p>見ごたえのある行事が多く素晴らしいと感じるが、厳しい指導になっているのではないかと感じる。自由あそびの時間を増やして活動のメリハリを付けたり、他学年の練習を見学して互いの成長を喜ぶ機会を設けるなどはいかがか。保護者に向けての発表だけでなく、子どもたち同士が刺激を受け楽しめる行事であって欲しいと感じる。</p> <p>絵画、音楽、英語、文字、数、体育など多種多様な指導により子どもたちの可能性を十分に伸ばす保育が行われており、小学校進学に向けての不安が少ない。半面、子ども主体の活動が少なく感じる。学年別や縦割り保育などで1日中自由あそびの日などがあっても良いのではないかと感じる。</p> <p>SNSやアプリを活用して園の様子がわかりやすく発信されている。写真より動画の方がより様子がわかりやすく、《おうちえん》の配信は嬉しい。写真や動画によりひとつひとつの活動の様子はわかるが、学年別の1日のタイムスケジュールがわかると、家庭での会話につながる。課外活動の様子も写真や動画で配信されると安心して入会することができる。</p> <p>新型コロナウイルスが5類に移行し、運動会や発表会などの園行事が制限なく実施できたことは長く続いたコロナ禍でフラストレーションの溜まった園児にとっても、保護者にとっても非常に清々しい一年になった。先生方にとってもコロナ禍からの転換期で色々とお苦勞の多い年間だったと思われる。心より感謝申し上げたい。</p>		